

下野市立石橋中学校

1 学校課題

「主体的・対話的で深い学び」の充実

～論理的思考を基盤とした課題発見・解決学習の推進～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

本校の教育活動の目的は、「未来を、たくましく生き抜ける生徒」を育成していくことである。そのためには、生徒を「自立した人」として育てていくことが必要となる。本校が考える「自立した人」とは、「自ら課題を見つけ、生きて働く知識や技能を習得し、思考力・判断力・表現力を高め、よりよく生きる力・価値観をもった人」である。個人では解決できないような問題にも級友と協力して取り組み、自律的に解決していける生徒である。

これからは、「今まで遭遇してこなかった課題に挑戦する」「正解のない課題とどう向き合っていくのか」「そもそも何が問題なのかを考える」といったことが問われている。

こうした時代を生き抜いていくために「自立した人」を育成したい。そのために「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善をさらに進めていきたいと考える。

(2) 研究の仮説

各教科で基礎的・基本的な知識や技能を計画的に指導した上で、レベルの高い課題（一人では容易に解決できない課題）を提示し、仲間と協働して解決する過程を通して、「主体的・対話的で深い学び」のある授業を展開し、「主体的に問い続ける学習者」及び「学びに向かう集団」を育成できると考える。



3 研究内容

授業力向上に関すること

(1) 一人一公開授業

今年度も昨年度に引き続き異教科異年齢3人の班を構成し、一人一公開授業及び授業後の授業研究会を実施した。公開授業の実施にあたっては、学校課題の「主体的・対話的で深い学び」を意識した課題を選び、授業を行った。課題は、教科書の問題や、実際の社会で遭遇する具体的な場面を想定した問題など、生徒の主体性を引き出す題材を選んだ。異教科の教員の授業を参観しお互いに刺激をもらい、学び合うことができた。

【一人一授業で実践した課題】

- ・国語科「短歌（俳句）の魅力をプレゼンしよう」「詩の主題を捉えよう」
- ・社会科「明治維新の三大改革」「内政論と征韓論あなたならどっち？」
- ・数学科「具体的な問題を連立方程式を利用して解決しよう」「四角形の性質を見つけよう」「75度の角を作図しよう」
- ・理科「銅の質量と結びつく酸素の質量の関係を説明しよう」「自然界における生物の数量的なつり合いについて説明しよう」
- ・英語科「ループリックを基にプレゼンしよう」「職場体験について伝えよう」
- ・音楽科「雅楽（越天楽）の鑑賞」「民謡のプレゼンをしよう」
- ・美術科「仏像彫刻のよさや美しさを感じ取り、特徴を捉えよう」
- ・保健体育科「バレーボールで多く繋ぐには」
- ・技術・家庭科「けがいた切断線で材料を切断しよう」

(2) 教科部会（時間割に位置付け）

教科内で授業内容や指導方法について専門的に話し合うため、教科部会を時間割に位置付け

た。教科内での公開授業を行い、教員の授業への意欲も高まり、授業力の向上が図られた。

(3) 総合的な学習の時間でのゼミ活動

SDGsをテーマにゼミ活動を行った。今年度は「企業」とコラボすることをテーマに盛り込んだ。「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ」の流れで、グループで協力し探究活動を行った。単なる調べ活動でなく、自分たちが住む地域の課題解決を目指し日々奮闘している企業に直接質問するなど、当事者意識をもち学習に取り組ませた。また、聞き手にとって理解しやすい発表を行うなど、他者意識の育成を目指した。



(4) 校内研修やS&Uコラボ研修会

「学び合い」の授業を行う上で、教員としての必要なスキルをアップするための校内研修やS&Uコラボ事業による研修会・授業研究会を実施した。「レベルが高く、生徒の主体性を引き出す課題」を提示し、仲間と協働して解決する過程を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実践する授業を行った。

月日	学年	単元名（題材名）、教材名	課題追究のための手立て等
7/3	講話	道徳「郷土を彫る」	主体的に課題を捉え、級友と議論を重ねながら道徳的価値への理解を深める。
7/17	3年	国語「俳句十句」	俳句の解釈における異なる視点を分析し、プレゼンテーション資料にまとめて論理的に発表する。
11/13	2年	保健体育「バレーボール（球技：ネット型）」	課題を主体的に捉え、仲間との協働的な学びを通して考えを深めさせる。

(5) ローテーション道徳

ローテーション道徳を年2回（6月・12月）実施した。同じ教材の授業を複数の教員が複数の学級で行うことで授業改善を図ることができた。また、小中一貫事業と重ね、研修の充実を図った。

(6) 石中教育フォーラム

年度末の校内研修として、全教員が個人レポートを作成し、それをもとにこの1年間の日々の授業や公開授業、研修などで学んだことを共有した。最後には功労者として代表の教員が自身の研究を発表した。

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

学校全体として、主体性を引き出す課題を設定し、ペア学習やグループ学習による対話を通して深い学びを実践するための取組を行ってきた。全教員が公開し、授業研究会を各グループで行うなど、授業力向上のための実践を行うことができた。国語科や英語科では、発表の際にループリックを作成し評価の透明化を図った。これにより生徒の主体性を引き出した。理科では、ICT機器（Google スプレッドシート）を活用し、学級全体の結果を集約させることで、多面的かつ多角的に思考し考察を書くことができた。生徒による学校評価アンケートで、「友達と協力して学習し、自分の考えに生かしている」は、3年生が3.6（4段階評価）と昨年度に引き続き高い評価を得ている。

(2) 研究の課題

学校評価アンケートで、「授業に意欲的に取り組んでいる」は、生徒全体で3.3と昨年度と横ばいの結果であった。発展課題に挑戦する授業実践は、基礎的・基本的な知識や技能の習得を疎かにしては成立しないと考える。生徒の達成感や成就感を引き出すために、3年間を見据え、単元を見通した確かな学力を伸ばす授業作りへの意識向上及び探究心が必要である。